

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	46
都道府県名	鹿児島県

【 〃 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	枕崎市立立神小学校								教員数
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	20
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	
児童数	45	43	49	58	60	64	1	319	

実践研究の概要

- (1) 研究主題
『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして』
～個に応じた指導法の研究を中心に～
- (2) 研究主題設定の趣旨
学校教育目標から
学校教育目標『心豊かにたくましく生きる立神っ子の育成』
(めざす子ども像)
「進んで学ぶ子」「やさしい子」「たくましい子」
これからの21世紀を生き抜く子どもたちが、心身ともに健やかでたくましく、心豊かに育っていくことを主眼において目標が設定されている。このような学校教育目標の具現化として、「生きる力」の土台である学力の定着をめざすことは意義深いと考える。
- 教育改革の動向から
中央教育審議会や教育課程審議会等の答申では、教育内容の削減と同時に、厳選された内容である「基礎・基本」を徹底して指導すべきであることが繰り返し強調されてきた。また、昨年度より全面実施された新学習指導要領も、基礎・基本を身に付け、それを基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしている。このように基礎・基本の定着を基にして「生きる力」を身に付けさせていくためには、子ども一人一人の能力や適正に応じた教育をより一層展開し、確かな学力の定着を図らなければならないと考える。
- 社会の要請から
現在の、国際化・情報化・科学技術の進展・高齢化・核家族化などの社会構造の急激な変化は、子どもたちを取り巻く環境にも大きな影響を与え、学校教育にも多くの課題をもたらしている。このような社会構造の変化は今後ますます激しくなると考えられ、先の見通しがますます立てにくくなると予想されている。そのような社会の中では、共生の理念の実現(よりよい人間関係の確立)と個々の自己実現をめざすことが重要であり、そのためには基礎学力の定着が欠かせないものである。
- 子どもの実態や保護者の意識から
日常の学習活動の評価や標準学力検査の結果などから、本校の子どもたちの学力の定着度には大きな幅があり、「読み・書き・算」と言われる基礎学力を確実に身に付けさせなければならない子どもを把握できている。加えて、学校週5日制の完全実施と新学習指導要領の実施に伴う学習内容の3割削減に、学力低下を危惧する保護者の声があがってきていることも事実である。このような時期に子ども一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を一層充実し、確かな学力の定着を図ることにより、学校への信頼を高めることは大変重要なことである。
- 以上のようなことから上記の研究主題を掲げ、研究を進めていくことにした。

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

- (1) 研究推進体制の工夫
- ・ 研究推進委員会(月1回)の開催
評価の基本的な進め方や、研究授業(授業研究)における評価と指導の在り方についての視点を設定し、研修を計画的・効率的に進められるようにしている。
 - ・ 全体研修
研究授業(授業研究)の前に、「指導と評価の一体化」という視点で、その段階での成果や課題を確認し全職員の意識や実践が深まるようにしている。
 - ・ 班別研修会、学年部会、教科部会も適時開催し、評価規準をもとにした評価基準の作成や題材の総括的評価の在り方など、研修を深めている。

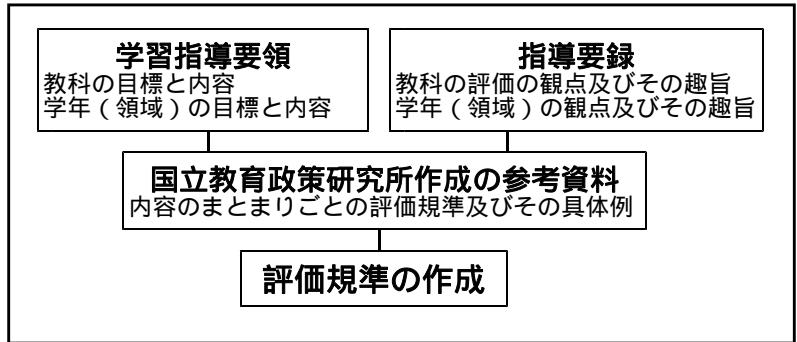
(2) 研究の実際

ア 評価規準の作成と改善

評価規準とは、言い換えると到達すべき目標である。したがって、客観性・信頼性をより高めるために、学習指導要領や指導要録、国立教育政策研究所作成の参考資料などをとって作成した。

本校では、学年ごとに「はげみプリント」を作成し、学習の習熟を図ったり、評価に生かしたりしている。

下の評価規準の小題材「2 整数÷小数の計算」の第1時では、そのはげみプリントを活用して評価することを記している。



イ 指導と評価の実際

評価規準にもとづき評価基準表を作成した。右の評価基準の小題材「2 整数と小数の計算」の第1時の評価基準は以下の通りである。

A：立式の根拠を，数直線や図，言葉の式をもとに説明できる。
B：数直線や図，言葉の式をもとに（整数）÷（小数）の立式ができる。

A, Bの2段階を記し, B段階を達成できなければC段階と評価する。評価基準を設定する際には, 必ず複数の教員で考え, 主観的な評価にならないようにするとともに, 信頼性・妥当性を高められるようにしている。

はげみプリントの「1 - 」と「2」だけでできていればB, 「1 - 」もできていればAと評価した。ただし, この時間は「立式の根拠を考えられたか(数学的思考)」を評価するので, 文章や図の表現の完成度だけで判断しないようしなければならない。また, できたかできていないかの評価だけでなく, どのような反応があったか, 1単位時間の中でどれだけ考えられたかという個人内評価の視点をもつことも大切である。

5年「小数のわり算」の評価規準(一部)

単位時間評価基準	はげみ	関心意欲	考え方	表現処理	知識理解	1	2	3	4	5	6
単元の目標	○										
【関】 小数の除法のしかたを、進んで考えようとする。											
【考】 整数の除法で成り立っていた関係の除法のわり算のしかたを、小数の除法のわり算のしかたで考えることができる。			○								
【表】 小数の除法を、筆算を使って正しく計算することができる。				○							
【知】 小数でわる意味と計算のしかた、あまりの計算あるときの処理のしかた、商を概数で求めるしかたが分かる。					○						
1 小数の除法の意味を考えたり、立式したりすることができる。			○								
(小数) ÷ (整数) の計算のしかたがわかる。					○						
被除数が除数より小さい場合の小数の除法の計算ができる。				○							
わり進める除法の計算のしかたが分かる。					○						
学習したことを振り返り、(小数) ÷ (整数) の計算を正確にできる。					○						
2 除数が小数であっても、整数と同じように除法が成り立つ意味を考えたことができる。	○		○								
(整数) ÷ (小数) の計算のしかたを考えたことができる。				○							

小題材「2 整数÷小数の計算」の第1時で活用するはげみプリント

5年算数科 はげみ 名前 ()

小数のわり算

1 2mが310円のリボンと、1.3mが195円のリボンでは、どちらが得でしょうか。

① 2つのリボンは、長さもねだんもちがいます。どうやってくらべたらよいでしょう。また、そのための式を書きましょう。

2mが320円のリボンの式
1.3mが195円のリボンの式

② 1.3mが195円のリボンの式について、なぜその式になるのか、書きましょう。(図や文章などでかいてもよいです。)

2 2.4ℓで450円のジュースがあります。このジュース1ℓのねだんを求める式を書きましょう。(式だけでよいです。)

1 単位時間（小題材「整数÷小数の計算」第1時）での指導と評価

〈見通す段階〉

～過程における評価と指導～

式を予想させ、ノートに書かせた。式を予想できている児童は、Aに達している可能性がある。逆に、予想できていない児童は、立式の根拠がつかめていないので個別指導が必要になる。この段階では、ある程度の理解度を把握し、次の段階での指導に備えた。



〈見つける段階〉

～過程における評価と指導～

一人一人の活動の様子を観察したり、OHPシートに書いている内容で評価した。4種類のヒントカードで、全員のつまずきに対応できるようにした。

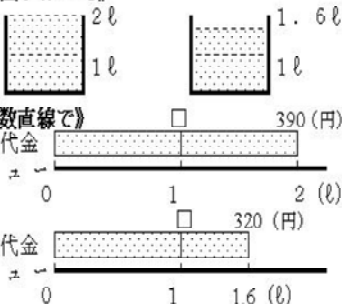
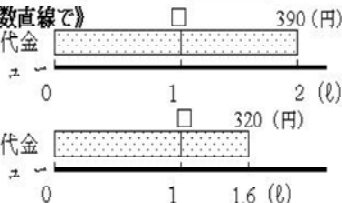
また、児童が書いたシートをもとに一斉指導した。



〈深める段階〉

～結果としての評価～

前述のはげみプリントで評価した。詳しい評価のしかたについては前述の通りである。理解に時間がかかる児童には、「小数のかけ算」の学習も想起させながら個別指導を行った。

過程	主な学習活動	時間	教師の支援（※は評価）
つかむ	1 計算練習をする。 ・ 問題を解いた後、結果を記録する。 2 学習課題を確認する。 1. 6ℓで320円のジュースと2ℓで390円のジュースとでは、どちらが得でしょうか。	3 7	○ 2分間計測し、個々の伸びを確認する。 ○ なぜ比較しにくいのかを児童になげかけ、量を1ℓにそろえればよいことに気付けるようにする。 ○ 児童が解決の見通しをもてるように、2ℓで390円のジュースの1ℓ分を求めた後、その式や計算を板書する。
	3 学習問題を設定する。 1. 6ℓで320円のジュースの、1ℓ分のねだんを求めるために、どのような式を立てればよいだろう。		
見通す	4 学習の見通しをもつ。 ・ 言葉の式を活用する。 ・ 図や数直線を活用する。 ・ 0.1ℓ分の値段を活用する。	5	○ 式を予想し、なぜその式になるのか考える学習であることをより明確につかめるようにする。 ※ 除数が小数であっても、整数と同じように除法が成り立つ意味を考えることができる。【数学的思考】
見つける	5 自分なりの方法で解決する。 《言葉の式で》 $390 \div 2 = 195$ 代金÷ジュースの量=1ℓのねだん $320 \div 1.6 =$ 《図にかいて》  《数直線で》 	10	○ 自分なりの考えをOHPシートにまとめることで、すぐに説明できるようにする。 ○ 児童が自分なりに考えて解決していくことに自信をもてるように、それぞれの方法のよさを認める。 ○ 1つの方法にとどまらず他の方法でも考えるように促す。 ※ 除数が小数の場合の除法の立式を意図的に考えようとする。【関心・意欲】 ※ 除数が小数であっても、整数と同じように除法が成り立つ意味を考えることができる。【数学的思考】
深める	6 考えたことを発表しあい、整数と同じように求められることを確認する。 いくつか分が小数で表されているときも、1つ分の大きさを求める計算は、整数と同じように、わり算になります。 7 練習問題を解き、考えを深める。 ・ はげみプリントの問題を解く	15	○ 友達と自分の考えを比較しながら聞くことを助言し、考えをさらに深められるようにする。 ※ 除数が小数であっても、整数と同じように除法が成り立つ意味を考えることができる。【数学的思考】
まとめる	8 本時の学習を振り返り、次時の活動を知る。 ・ 本時の学習でわかったことをまとめる。 ・ 自己評価や相互評価をする。	5	○ $320 \div 1.6$ の計算をどのようにしたらよいかなげかけることで、次時への学習意欲を高められるようにする。

(3) 成果と課題（成果 課題）

評価規準を活用し評価方法を工夫したことにより、児童一人一人の理解度や定着度を把握できた。

はげみプリントを評価の一手段として活用することで、児童が何年生のどの単元、どの学習の段階でつまづいているのか、教師も児童本人もつかむことができるようになり、指導に生かすことができた。

絶対評価や個人内評価が柱となる中で、相対評価を目的に応じて指導に生かすことも必要である。目標を定めたり、自分の適性を知る手がかりにしたりすることで指導に生かしていかなければならない。

評価規準や評価基準などを作成し活用しているが、主観的な評価に陥りやすい。表現を工夫したり、児童の実態を的確にふまえたりしながらより客観性・信頼性のある評価をできるようにしなければならない。

学習への原動力となる「関心・意欲・態度」を適切に評価するとともに、それをさらに高める指導と評価に努める必要がある。

(4) 成果の普及方策

はげみプリントと評価規準を各学年ごとに冊子、CD化して市内各小学校へ配布
中間発表での、「指導と評価」を視点とした公開授業（授業研究）の実施と研究誌の配布
地区協議会主催の研修において、本校の「指導と評価の在り方」について発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|-----------|---|--|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下
<input type="checkbox"/> 13～18学級
<input type="checkbox"/> 25学級以上 | <input type="checkbox"/> 7～12学級
<input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導
一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語
<input type="checkbox"/> 生活
<input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会
<input type="checkbox"/> 音楽
<input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 算数
<input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 理科
<input type="checkbox"/> 家庭 |

【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

立神小学校では、自校の評価規準を活用し、評価方法を工夫することによって、指導と評価の一体化を図る研究に取り組んでいる。特に、自作のはげみプリント等を活用することにより、児童と教師の双方が、つまずきを把握し、指導に生かす等の工夫を行うなど、評価のための評価でなく、指導に生かす評価を具体的な形で研究していることが、他校の参考になると考える。